

バイタルリンク運用好事例紹介（その12）

～地域包括支援センターとの連携～

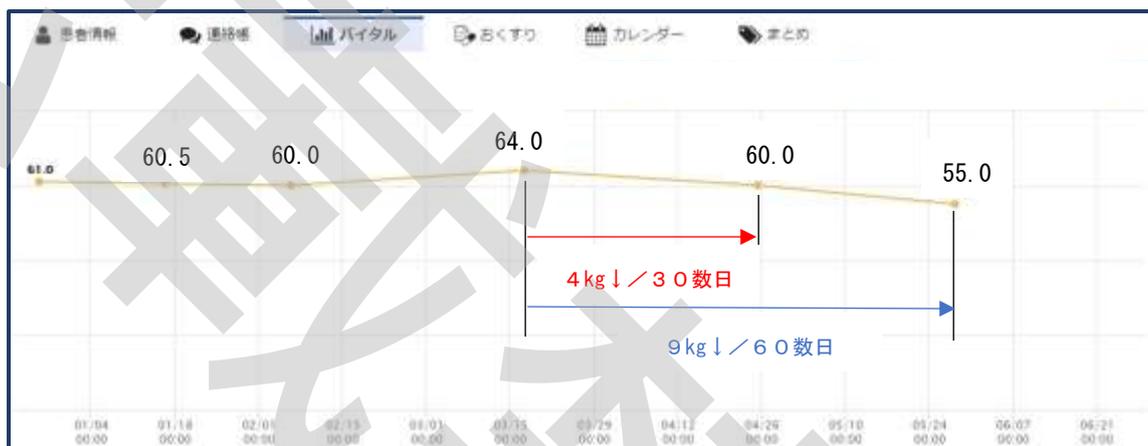
●【事例】75歳男性、アルコール依存の独居アルツハイマー型認知症の方



地域包括

件名：体重の増減について(5/28)

昨日、本人宅を訪問。るい瘦が見られ、体重測定をしたところ55kgであり、これまでの測定で最低体重。本人は体調不良は無いと言い、食事も摂れていると話す。(ビールの空き缶は今までと同様にあるが、他のゴミは捨てたばかりのようでゴミ袋は空の状態。その為、弁当の空き容器やおにぎりの包装などの確認はできず。冷蔵庫内を見るが、サトウのご飯1パックと味噌のみしか入っていない)ポストはチラシや郵便物で一杯になっており、本人の了解を得て全て取り出す。本人と共に郵便物の確認をするとガスの払込票や市役所からの送付物など。郵便物に記載された日付より、2～3月頃からポストの確認はしていなかった様子。本人の妹に連絡を取り、医療を含め今後について早急に相談を行う予定としました。※体重の推移は、【バイタル】にXX年10月2日のアウトリーチ以降の値を入力してあります。



医師

件名：Re:体重の増減について(5/28)

困りましたね。
改めて作戦会議が必要です。
モニタリングは週に一度など頻度を上げて下さい。



地域包括

件名：本日、病院へ救搬(6/9)

先月末の訪問時の状況より、本人の姉へ連絡を入れ今後に向けて早めに対策を講じて行く必要があることを伝えるものの、“のらりくらり”とした反応。今一つ、問題意識も乏しく。今日、改めて姉に連絡を入れ医療・介護・生活の支援について検討しなくてはならない状況が差し迫っていることを伝えました。結果、うるさそうに「じゃあ、今から本人の所に行って見てみる」との返答。このやり取りから約1時間後。妹から焦った様子で包括へ入電。本人が全裸で便汚染された状態でベッド上に倒れており、「苦しい」と訴えているので救急要請したとのこと。包括もすぐに本人宅へ急行。意識はレベル2桁(II-10～20位) 救急隊へこれまでの支援経過を伝達し、病院へ搬送となりました。本人の妹はこの事態に驚くと共に、軽視していたと自ら口にし、今後について落ち着いたら一緒に考えて欲しいと話していました。※本人の状態に関する詳細が分かり次第、妹から改めて包括に連絡が入る予定。



地域包括

件名：病院・家族(妹)からの情報(6/18)

今回の搬送について、診断は「熱中症」
現在、状態は安定しており末梢からの補液に加え食事も常食が提供されている。
しかし、点滴の自己抜去等の状況もあり病室はナースステーション脇の部屋で対応中。
今後、一旦老健を挟み、その後の方針を検討する予定。



地域包括

件名：6/27 病院から老健へ(6/24)

病院 MSW、妹より包括へ連絡あり。病院からは「認知症は中等度以上と思われ、独居生活は難しい」と言われた。妹の自宅から近い場所での希望もあり、一旦、8/27 に入所の運びとなった。現在、区分変更申請中。老健入所中に妹とも相談し今後の生活の場等について検討予定となりました。



地域包括

件名：予定通り、老健入所しました(7/2)

6/27 に予定とおり、老健に入所しました。昨日、老健の相談員と電話で話をしたところ、「本人は今のところ落ち着いて過ごしている。ただ、今後、アルコールのことを思い出したらどうなるか、少し心配だが…」と。今後想定される入所期間については3ヶ月毎に評価をしていくが、1年位は入所継続できる見込みといった話も聞かれました。現在、区分変更申請中であり認定結果によっては特養の申し込みも視野に入れて行く予定となりました。

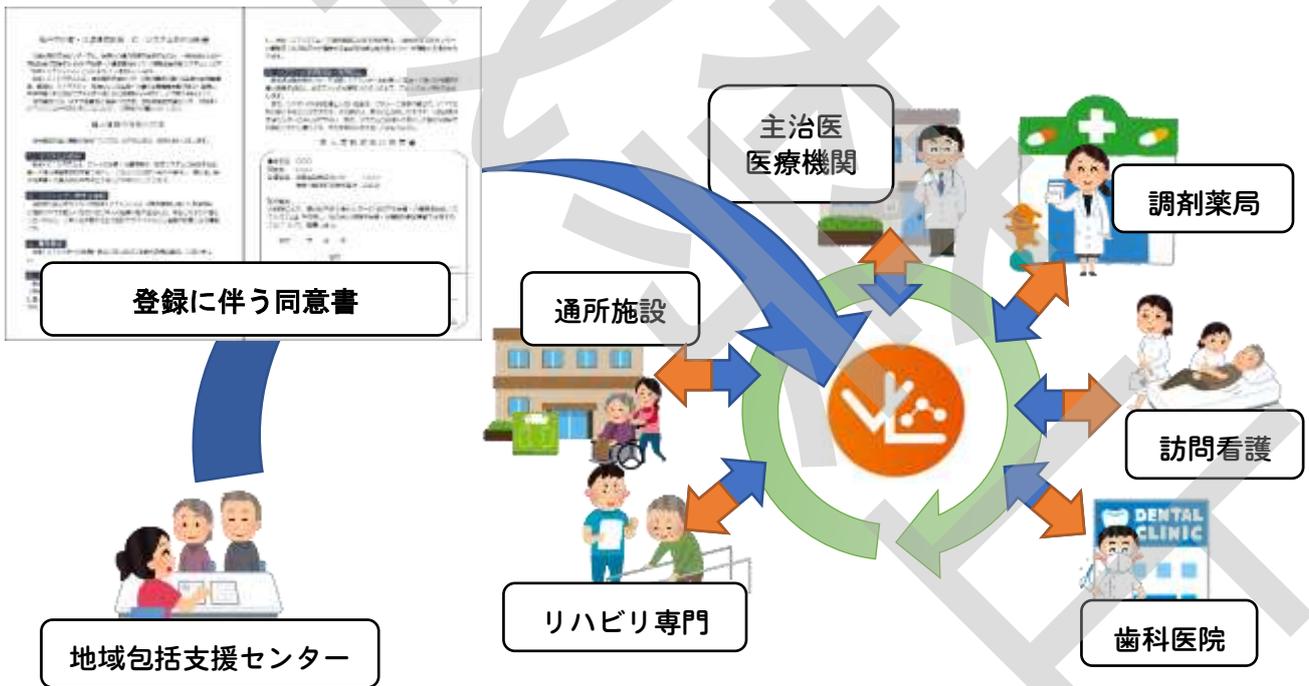


医師

件名：Re: 予定通り、老健入所しました(7/2)

ようやく一段落できたとのこと、安堵しました。ご苦労様でした。

通常、各事業所が契約時に連携事業所との情報共有に関する包括同意をされており、事務局へ登録申請書を送付し、バイタルリンクへ患者・利用者を登録する。
地域包括支援センターの相談者を登録する場合は、本人または家族の同意を取得し登録する。



推奨する利用方法

地域包括等がかかわる段階のアウトリーチを含む相談事例においてもバイタルリンクへの患者登録を行うことができ、アウトリーチ担当医や関係機関との密な情報共有を行うことが出来る。